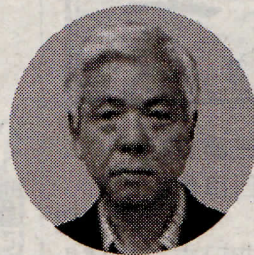


# 中経 論壇

経営支援NPOクラブ理事  
吉田 仁



先のリオデジャネイロ・オリンピックでは、日本勢の活躍が目立ち、連日多くの感動を生んだ。お家芸の復活もあれば、これまで、全くメダルに届かなかったのに、大きく躍進した種目もたくさんある。

その中で、とりわけ感動したのが、男子400Mリレーでの銀メダルである。個々人でみると、100Mが10秒を切る日本人選手はいない。それでも2位に入れたのは、チー

ムワークによるバトンの受け渡しの改善にあった。オーバーハンドからアンダーハンドに変えることにより、受け渡し時のスピードを落とさず、さらに渡すときの距離を、これまでより腕の長さ分長くなることにより、3回の受け渡しで、100分の何秒かを短縮できたのだという。

4人の呼吸をあわせるため、相当に練習を重ねたことが想像される。そうした努力も評価されるべきだが、ゴールまでの4人トータルの時間を短縮するという大きな視点があつたればこそ、バトン受

## リオ400Mリレー「銀」に思う

け渡し時のスピードを維持して、個々のハンディをカバーするという構想が生まれたのだと思う。日本でなぜスマートフォンが作られなかったのか、という問題と重ね合わせて考えてみた。スマートフォンで使われている個々の技術は、日本が開発されたものが多いが、人々のニーズに 대응する技術をチームとしてまとめ上げラボさせ、創造するという大きな視点が欠けていたといわれている。

資源の無い日本は、モノづくりの分野で、日本人の器用さを活かして製品の品質を高め、技術立国として、大きな成長を遂げてきた。電気製品、自動車そして半導体などの分野で、アメリカやヨーロッパと競って、日本は個々の力を伸ばしてきた。そして、さまざまな工夫をこらした、あらたなテクノロジーも開発してきている。それなのに、それらを統合する構想力が欠けていたため、スマートフォンを生み出すことができなかった。

個々の技術の高さだけでは勝てない。製品を構想し、技術をチームとしてまとめ上げることの大切さを今回のリレー銀メダルに教わったように思う。今後モノづくり日本がめざすべきは、企業同士が相互交流を深め、新製品を構想して開発を進めることではないか。特に、ITの分野では、一歩遅れをとった感のある日本だが、チームワークによる構想力を高めれば、世界の舞台でのメダルも夢ではないと思う。

## チームワークによる構想力を高めよう